

歴博 くらしの植物苑だより

第125回くらしの植物苑観察会 8月29日(土)

朝顔の交配・育種のすすめ

仁田坂 英二(九州大学)

10年前から始まった、歴博における変化朝顔の展示が契機となり、以前よりも変化朝顔の愛好家が増えてきていることを実感します。そのため、現在のブームを、文化文政、嘉永安政、明治後期～昭和初期に続く、朝顔の第四次ブームと呼んでも良いのではないのでしょうか。過去のブーム、特に第三次ブームでは多くの朝顔の愛好会が発足し、数々の新しい品種が作られ、厳密な基準に基づいた朝顔の評価が行われていました。今後、この朝顔のブームをもっと盛り上げて行くためにも、より深く朝顔を楽しむ人々が増えてくることを願っています。その一つとして、自分だけの朝顔を作る楽しみ、つまり朝顔の育種があります。

朝顔は一年草ですので、交配・育種の結果が出るのが早く、すぐに自分だけの朝顔を作り出して楽しむことができます。また種子の数も多いため、いろいろな変異が組み合わさった、これまで無かったような朝顔を作ることができます。

交配育種の方法には、最も単純な方法として、昆虫などによって自然交雑した株を選んで、次の世代で分離してくる新しい組み合わせの変異を持つ株を選ぶ方法があります。これは江戸時代に専ら用いられていたと思われる方法ですが、今すぐにでも始めることができます。つまり、発芽した子葉の中から他とは違う色や形をした交雑した子葉を選び、これから採種し、翌年まけば、いろいろな組み合わせの朝顔が出てきます。また、もっと方向性をもった育種を行うには、交配したい親のうち、種がでやすい方を雌親にして、前日に雄しべのやくを取り除いておき(除雄)、翌日の早朝、雄親の花粉をつけます。あとは同様に採種して、目的の形や花色の朝顔を選抜します。ただし、変化朝顔では親木(ヘテロ接合)の状態で維持している品種も多いため、交配したうちの半分ないしは3分の1しか次代に引き継がれないため、ある程度の数の交配をする必要があります。

今回の観察会では、このような新しい朝顔の育種に役立つ知識についてわかりやすく説明したいと思います。また暮らしの植物苑に展示されている変化朝顔についても育種の観点から解説を行います。

次回予告 第126回くらしの植物苑観察会 2009年 9月26日(土)

「**東海道の名物 食べ物と土産**」 山本 光正(本館研究部歴史研究系)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要 要入苑料